

用語解説一覧

用 語	解 説
30by30	2030 年までに、陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標のこと。
DX	デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略。デジタル技術で社会や生活の形を変えること。
SDGs	Sustainable Development Goals（＝持続可能な開発目標）の略。2015 年 9 月に開催された国連サミットにおいて採択された「2030 アジェンダ」の中核となる、2030 年までに達成すべき国際目標。
Well-being	身体的・精神的・社会的に満たされた状態。
あ行	
維管束植物	維管束と呼ばれる通道組織を有する植物の総称。具体的には、シダ植物および種子植物（裸子植物、被子植物）をいい、菌類、藻類、コケ類などと区別される。
イシサンゴ類	炭酸カルシウムの硬い骨軸をつくるサンゴ。ハードコーラルとも呼ばれる。
ウォークアブルシティ	街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられるようにした街のこと。
オープンスペース	公園、広場、河川、農地など、建物や工作物などによって覆われていない土地。
か行	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。2020 年 10 月、政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。
外水	堤外地を流れる川の水のこと。
崖線	台地が河川などにより削られてできた段丘が延々と続く崖地。区内には国分寺崖線と南北崖線があり、湧水や樹林地など豊かで貴重な自然が残されている。
乾球温度	周囲の通風を妨げない状態で、輻射（放射）熱による影響を受けないように球部を囲って測定された乾球温度計が示す値。

用 語	解 説
環境学習	地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護・整備その他の環境の保全についての理解を深めるために行われる、これに関する教育・学習。
汽水	河川と海の接点で、海水と淡水が混ざり合っている状態。
区民農園	区内の民有農地等を活用し実施している取組で、区民が余暇活動の一環として、身近な場所で野菜や花などの農芸作物の栽培を体験するための施設。
計画雨量	ある河川流域の計画に用いる雨量で、年超過確率で評価される規模と降雨断続時間によって決められる。
交流人口	その地域に訪れる人々のこと。
黒球温度	次の特性を持つ中空黒球の中心に位置する温度計が示す値。 (1)直径が 150mm であること(2)平均放射率が 0.95 (つや消し黒色球)であること(3)厚さが出来るだけ薄いこと
こどもまんなか社会	こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えた社会。
さ行	
サードプレイス	家庭を第一の場所、学校、職場を第二の場所とした際に、居心地の良い空間として趣味や息抜き場となり、心がやすらぎ、人々のストレスが軽減される大切な場所。
自然湿球温度	強制通風することなく、輻射(放射)熱を防ぐための球部の囲いをしない環境に置かれた濡れガーゼで覆った温度計が示す値。
浸透ます	雨水などを集めて、一部を地面に吸収させることを目的とした集水設備。
水源涵養	森林に降った雨や雪などの降水や水田の水が、地中(土壌)に浸透し、地下水となりゆっくりと流れ出ることで、洪水や渇水が緩和されたり、澄んだ美しい水を供給したりする働きのこと。
生産緑地	市街化区域内の農地などで、公害又は災害の防止、農林漁業と調和した都市環境の保全等良好な生活環境の確保に相当の効用があり、生産緑地法に基づき都市計画として定めた生産緑地地区内の農地など。生産緑地に指定されると農地などとして管理しなければならない一方、税制面で優遇措置を受けられる。
生態学的ニッチ	生態的地位のこと。動物であれば、餌となる植物や他の動物、隠れ家など、また、植物であれば、光合成に必要な太陽光や根を張るための土壌など、生物が自然の生態系内で生きていくために不可欠なもの(環境)がある。生物種が生態系内でこれらを巡る種間の争奪競争に勝つか、耐え抜いて、得た地位が生態的地位(ニッチ)である。
生物多様性	自然生態系を構成する動物、植物、微生物など地球上の豊かな生物種の多様性とその遺伝子の多様性、そして地域ごとの様々な生態系の多様性をも意味する包括的な概念。

用 語	解 説
相対湿度	空気中には気温ごとに水蒸気を含むことが出来る量の限界（飽和水蒸気量）が決まっています、その限界までのうち何%含んでいるかを示すもので、一般的に天気予報などで使われるもの。 これ対し、絶対湿度は、縦横高さ 1 メートルの空間に含まれる水蒸気の重さが何グラムかを示す。
た行	
脱炭素化	人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収作用の保全及び強化により吸収される温室効果ガスの吸収量との間の均衡が保たれること。
堤内地・堤外地	堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を堤内地、堤防に挟まれて水が流れている側を堤外地と呼ぶ。
デジタル田園都市国家構想	デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現するという国の構想。
特別緑地保全地区	都市緑地法などで定められた緑地保全制度の一つで、都市内の緑地を特別緑地保全地区として都市計画に定めることにより、木竹の伐採など一定の行為を許可制とし、現状凍結的に緑地を保全する制度。
都市利便増進協定	広場・街灯・並木など、住民や観光客等の利便を高め、まちのにぎわいや交流の創出に寄与する施設（都市利便増進施設）を、個別に整備・管理するのではなく、地域住民・まちづくり団体等の発意に基づき、施設等を利用したイベント等も実施しながら一体的に整備・管理していくための協定制度。
な行	
内水氾濫	下水道等の排水施設の能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時等に、雨水が排水できなくなり浸水する現象。
ネイチャーポジティブ	自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。
ノモグラフ	数値計算を簡便に行なうために用いる図表。
は行	
パークレット	車道の一部を転用して作られた歩行者の為の空間。
パーゴラ・ベンチ	つる性の植物を絡ませる木材やアルミなどで組んだ屋根のない棚にベンチがついたもの。日よけや美観を向上させる効果がある。
ビオトープ	ドイツ語で生物を意味する「ビオ（Bio）」と場所を示す「トープ（Tope）」の合成語のこと。本来は1つの生物種にとって必要な空間のまとまりを意味するが、現在では元来そこにあった自然風景、生態系を回復・保全した区域を含んでいる。
ヒートアイランド現象	都市活動の結果、都市中心部の気温がその周辺の郊外部に比べて高くなる現象のことで、都市規模が大きいほど影響も大きい傾向にある。。

用 語	解 説
不燃化特区制度	東京の木造住宅密集地域のうち、特に重点的・集中的に改善を図る地区を指定し、都と区が連携して不燃化を強力に推進して「燃え広がらない・燃えない」まちづくりを進める制度。
ブルーカーボン	沿岸・海洋生態系が光合成により CO ₂ を取り込み、その後海底や深海に蓄積される炭素のこと。ブルーカーボンの主要な吸収源としては、藻場（海草・海藻）や塩性湿地・干潟、マングローブ林があげられる。
平均放射温度（MRT）	暑さ感を示す体感指標の一つで、周囲の全方向から受ける熱放射を平均化して温度表示したもの。MRT の値が気温よりも高いと、周囲から受ける放射熱による暑さを感じ、逆に気温よりも低いと涼しさを感じる。
ベースカット	降雨による流出量から一定量差し引き、雨水流出量の抑制を図ること。
防災公園	災害時に避難地として救援機能、輸送等の中継拠点機能を担う公園。東京都では、都立公園のうち、総合的な防災計画である「東京都地域防災計画」の中で「大規模救出救助活動拠点」や「ヘリコプター活動拠点」に位置付けられているもの、火災などの危険から避難するための「避難場所」の指定を受けている公園のことを指す。
ま行	
マルチング	植物が植えてある地表面を、ポリエチレンフィルムなどの資材で覆うこと。 マルチングを行うことで、地面の温度調節、雑草・病害虫の発生の予防、土が固くなるのを防ぐ等の効果が得られる。
ら行	
流出率	河のある地点の上流域（集水域）に降った雨のどれだけの割合がその地点に流れ出てくるかを示す値。
緑被率	緑被地（樹木被覆地、草地、屋上緑地等）が、区域面積に占める割合。
レイズドベッド	周りの地面よりも高くなっている花壇のこと。レンガやブロック、石を積んだり板で囲ったりして周囲よりも高くした中に土を入れて、植物を植える。水はけ、風通し、日当たり、見た目の改善等の効果が得られる。
レッドデータブック	すでに絶滅した、あるいは近いうちに絶滅しそうな生き物の種類やその原因などをとりまとめた本。
わ行	
ワイルドフラワー	オーストラリアや南アフリカなどの南半球に自生する植物の総称。乾燥地帯の厳しい環境への適応によるユニークで独特なフォルムやカラー、質感が特徴。
ワンド	河川敷にできた池状の入り江のことで、本川から離れた溜まりも含む。希少な魚をはじめ、種々の生物が共存する豊かな環境であることが認識され、その価値が評価されている。